

# 青森港

## 青森県県土整備部港湾空港課

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号  
 ☎017-734-9673 FAX 017-734-8194  
 URL : <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kowan/>



## 1. 概況

青森港は寛永元年(1624年)、当時善知鳥という一漁村を、津軽二代藩主信牧公が家臣森山弥七郎に命じて開港するとともに、青森村と命名したのがその始まりである。本港は本州の北の玄関として、古くから北海道とを結ぶ連絡港ならびに東北地方北部に対する物資流通の中心として栄えてきた港である。

その後、明治4年廃藩置県により、青森に県庁が設けられてから県の財政、経済の中心地となり、明治24年東北本線、同27年奥羽本線が開通した結果、本港は北海道連絡の発着地点として陸海交通の重要拠点となった。

明治39年に至り本港は制限貿易港に、翌40年第2種重要港湾に指定され、続いて明治41年3月には鉄道省による鉄道連絡船が設定され、本港は対北海道及び樺太への物資輸送の中継港として、その重要性は一段と増加した。このため、大正4年内務省は本港修築第一期工事着工、北防波堤、西防波堤、鉄道係船岸、安方物揚場等を約10年の歳月をかけて完成させた。この間、本港の港湾取扱貨物量は急激に増加し、大正14年には、青函航路に当時交通史上はじめて貨物車航送が開始され、輸送力の増強確保が図られた。

ついで、内務省は、昭和7年本港修築第二期拡張工事に着工、北防波堤、西防波堤の延伸、岸壁、物揚場等が同18年に完成し、ようやく近代的な港湾としての形態が整うこととなった。

港湾改修事業は、昭和25年より本格的に国及び港湾管理者により継続して施工され、29年には3,000重量トン級岸壁1バース、38年には10,000重量トン級岸壁1バース、40年には10,000重量トン級岸壁及び5,000重量トン級岸壁1バースが完成し、大型船の接岸荷役が可能となった。この間32年には大豆輸入港、33年には木材輸入港及び植物検疫港に指定された。

本州北の玄関口である本港は、本州と北海道の物流を支えるフェリーの基幹航路の発着港となっており、カーフェリーは、40年より就航し、47年12月、財団法人青森県フェリー埠頭公社を設立し、48年3月より沖館地区カーフェリー専用埠頭の工事に着手し、49年3月に3,000総トン級棧橋4バースで供用している。

また、青森市の最東端にある浅虫地区は、東北有数の海岸温泉地として全国に知られているが、50年にヨットハーバーを中心とした観光港の建設に着手、51年にヨットハーバーが完成し、52年青森国体に使用され好評を得た。

新中央埠頭は、交流拠点用地及び緑地等の整備が進められ、旅客船バース(水深-10m)[耐震強化岸壁]が平成15年8月に供用開始された。

東日本大震災により被災した八戸港の代替港として青森港が利用されたこともあることから、当旅客船バースや沖館地区の沖館埠頭(水深-7.5m)[耐震強化岸壁]を利用することにより、青函航路等の幹線物流機能を確保することとしている。

現在は、青森駅の北側の閉鎖的水域に新たな賑わい空間の創出と豊かな海辺の再生を図るため、人工海浜(駅前干潟)の整備を行っている。

また、港湾貨物量の90%以上を取扱うフェリー埠頭及び大型公共岸壁(水深-13m、-10m)がある沖館地区においては、施設の老朽化対策と併せ、近年、国内外クルーズ船の寄港が増加していることから、大型クルーズ船も接岸可能となるよう岸壁改良工事を行っている。